

6 ネットワーク開発戦略プロジェクト

IOWN 実用化推進に向けた ネットワーク開発戦略に関する取り組み

ネットワーク開発戦略プロジェクトは、ネットワーク系研究開発成果の事業導入推進をメインミッションに掲げ、各開発プロジェクトと連携した計画策定、リソース／品質管理や研究開発環境の維持・高度化を通じた NIC 全体の開発マネジメントを実施している。開発成果の円滑な事業導入に向けた本プロジェクトの取り組みについて紹介する。

本プロジェクトのミッション

ネットワーク開発戦略プロジェクトでは、①ネットワーク系研究開発成果の事業導入推進、②開発プロダクトの品質管理、③研究開発環境の維持・高度化という3つの業務を通して、NIC が取り組むネットワーク系研究開発の推進、下支えるミッションを担っている。

本プロジェクトの業務概要

① ネットワーク系研究開発成果の事業導入推進

NIC が取り組むネットワーク系研究開発は、(1) IOWN 実用化を推進する基盤的研究開発、(2) NGN 等既存ネットワークで活用中の研究成果に対する個別開発があり、近年は前者のウェイトが高まりつつある。これらの開発を推進する全体的なマネジメント役として各開発プロジェクトと連携を図り、計画策定、進捗管理、リソース管理、開発案件のオーソライズをリードし、開発成果の円滑な事業導入に取り組んでいる。

具体例としては、IOWN の APN

の早期実用化に向けた中継網の更なる大容量化・高機能化・保守高度化を実現する技術、それらをコントロールする技術、又は、他の NTT 研究所成果

の要素技術を取り込んだプロダクト化など事業ニーズとマッチした開発成果の創出に貢献している。

また、研究開発フェーズを終えたプロダクトの事業会社等への維持管理移行を推進する役割も担っており、2023 年度においては、電話系サーバ群の移行を完遂、研究開発におけるライフサイクルマネジメントを意識した取り組みを推進している。

② 開発プロダクトの品質管理

近年、NTT グループの商用サービスにおいてお客様に影響を与える大規模障害が多く発生しており、グループ全体的な再発防止やサービス品質向上の必要性が高まっている。NIC においても、潜在的な障害リスク低減のため、大規模障害に繋がる事象の原因分析を行うとともに、現在開発する IOWN プロダクト開



日本電信電話株式会社
ネットワークイノベーションセンター
ネットワーク開発戦略プロジェクト

(左から) 担当課長 道田 英雄 氏 担当課長 飛弾 和臣 氏
担当課長 比良木 貴志 氏 主任研究員 唯野 和正 氏

発への迅速な水平展開など品質管理強化を推進している。また、開発品質の現状把握や定量・定性分析を通じて、中長期的な観点において、研究開発力の更なる品質維持・向上を目指している。

③ 研究開発環境の維持・高度化

武蔵野ロケ内検証ネットワーク(SS-NET)を最大限活用し、IOWNをはじめとする開発・維持管理を円滑に実施する為、セキュア・低コストな環境を安定的に提供している。今後は、ビル老朽化対策や外部サービスの利用など中長期的な観点であるべき検証環境の姿の検討や更なる運用効率化を目指していく予定である。

以上の取り組みを通して、NIC における IOWN 実用化等に資する開発をさらに加速させていく。